



心も体も元気な岡村っ子

おもいやりをもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子



横浜市立岡村小学校・学校だより R4.7.28 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/> 岡村小学校で検索

子どもたちへ 心配は しない方がいい 感謝は した方がいい という話

副校長 船山 道太

新型コロナウイルス感染症の感染者数は、また、増え始めました。第6波のあと、しばらくの間、落ち着くと思われましたが、これまでのケースとは異なり、すぐに感染状況は、右上がりとなりました。

岡村小学校では、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和元年末前の教育活動に戻ることを目指し、これまで、中止してきた教育活動、また、保護者、地域の皆様の教育活動への参画を、再開できるよう、機会をうかがってきました。

ここまで、創立60周年記念岡村オリピッ2022、3学年の根岸森林公園の遠足、個別支援学級のスポーツ交流会、1・2学年合同久良岐公園は天候不良のため中止になりましたが、6学年片品宿泊体験学習、また、4学年のごみ焼却工場見学と、昨年度、中止となった行事を含め、実施することが叶いました。中止、延期を繰り返してきたここ3年間があり、やはり、子どもたちに、ぜひとも、学校の中では経験できない体験学習に取り組む機会をつくりたいと挑戦しています。

世界は広く、家庭、地域は、温かい。たくさんの人と出会い、話を聞き、自分の体、目と耳、全ての感覚をつかって、様々なこととふれあって、感じることでできる体験活動を、この感染状況においても、これまでの我々教職員の経験を生かし、安全に実施できるよう努めていきたいと考えます。人生は長くても、この年の子どもたちの経験は、やはり、かけがえのないこととなりますから、リスクを負ってまでとは言えませんが、学校内ではできない経験ができるように 少しでも 準備していきたいです。

6学年の片品宿泊体験学習に引率しました。子どもたちは、楽しさの中にも、ルールやめあてがあり、集団で、事前に調べ学習などしていましたが、だれも行ったこともない校外での活動に緊張感もありました。散策というには、結構厳しい山林のトレック、魚を捕まえる以前に、痛いとも感じたものすごく冷たい水。活動したいのに、暑すぎて、休憩を強いられたグランドゴルフ。熱中症予防のため、水分を補給するも、水筒やペットボトルの水がなくなってしまうなど、いろんなことを経験しました。

初日の旅館、先週までこたつで過ごした片品が、翌週から突然の30℃超えて、当日から、空調の故障となりました。旅館の皆様の努力から、なんとかかなり、有り難いというしかありませんでしたが、子どもたちの健康被害を起こす訳にはいかないもので、宿を変えることも検討したぐらいです。なんとかかなりでしたが、感謝を忘れてはいけなく強く感じました。4年の焼却工場見学のときの空調故障もそうでしたが、やはり、そのときどきと気候の状況は、想定外のことも起こり得る、私たちの経験値が上がります。

片品村は、横浜市と同じ面積があるようです。その片品村には、村にたった一つの信号機があります。けっしてなくてはならない場所にあるわけではありませんが、村で一つしかない小学校の近くにありました。このまちで育つ経験の少ない子どもたちへ。子どもたちは、その信号機のもと、信号機を体験することができるようになりました。大人は、子どもたちのために、必要なものを与えます。ときに奪いもします。その中には、愛があり、与えるも、奪うも、愛があつてこそですが、子どもには、思いも願いも伝わらないことが、ほとんどではないでしょうか。それでも、少しでも、しっかりと生きてほしいという、子どもより未熟とは言えない大人たちの愛の現れの美しさに、気づけば、心を打たれるばかりです。伝わらなくても、与える続ける私たち大人の取り組みを、たとえ、大人のわがままと子どもたちが思っても、続けていきたいとことを 質、精度を上げて 体験させてあげたいです。